

# 北海道 文教 広報 報

2024年4月 人間科学部地域未来学科 誕生  
HBUキャンパスライフ  
シンポジウム・公開講座で大学の知を地域へ  
好き＆笑顔があふれる高校生活



撮影/岩尾柁摩(写真部部長)

今夏の北海道は気温が高い日が長く続きましたが、秋を迎え、少しずつ涼しさを感じられる日が増えています。

本学園は、2022年に創立80周年を迎えました。この間、創立者の鶴岡新太郎・トシ夫妻が掲げた建学の精神「清く正しく雄々しく進め」のもと、鶴岡イズムともいべき実学重視の校風を培い、多くの有為な人材を社会に送り出してきたところであり、この節目を機に創立100周年に向けて、新たな歩みを始めたところです。

さて、2023年の鶴岡学園においては、北海道文教大学では、4月には地域が求める優れた医療人材の育成に向けて医療保健科学部を設置し、入学者数も昨年比1.1倍増の合計546人となりました。また、2024年4月には、地域社会の発展や現代社会の課題解決の実現に貢献できる人材の養成に向けて、人間科学部に「地域未来学科」を新たに開設する予定で、これからも時代の変化に柔軟に対応しながら、現今の課題に立ち向かっていける人材の育成を行ってまいります。

北海道文教大学附属高等学校、北海道文教大学附属幼稚園は、恵庭市に移転して3年目を迎えました。今後も恵庭市や関係団体等との連携を一層深め、地域に根差した高校、幼稚園として教育活動に取り組んでまいりたいと考えております。

少子高齢化はこの先も進み、益々厳しい時代になっていくと思われまます。これまでの関係各位、学生・生徒・園児・保護者の皆さまの多大なご理解とご協力に深く感謝するとともに、引き続き、本学園の教育・研究活動にご支援とご高配を賜りますようお願い申し上げます。



学校法人鶴岡学園 理事長  
鈴木 武夫

地域の時代、未来の担い手はHBUキャンパスから!!

# 2024年4月1日スタート 人間科学部『地域未来学』

「栄養と料理」で道民の健康に貢献した鶴岡学園の創設者、鶴岡新太郎・トシ夫妻。人生の財産「健康」の維持は、安定した経済の上になり立っています。人口減少などにより地域経済の先行きが不透明な中、北海道文教大学(HBU)では、道民の未来を思い奮闘した鶴岡夫妻の遺志を継ぎ、地域活性化の担い手を育成する『地域未来学科』を新設します。

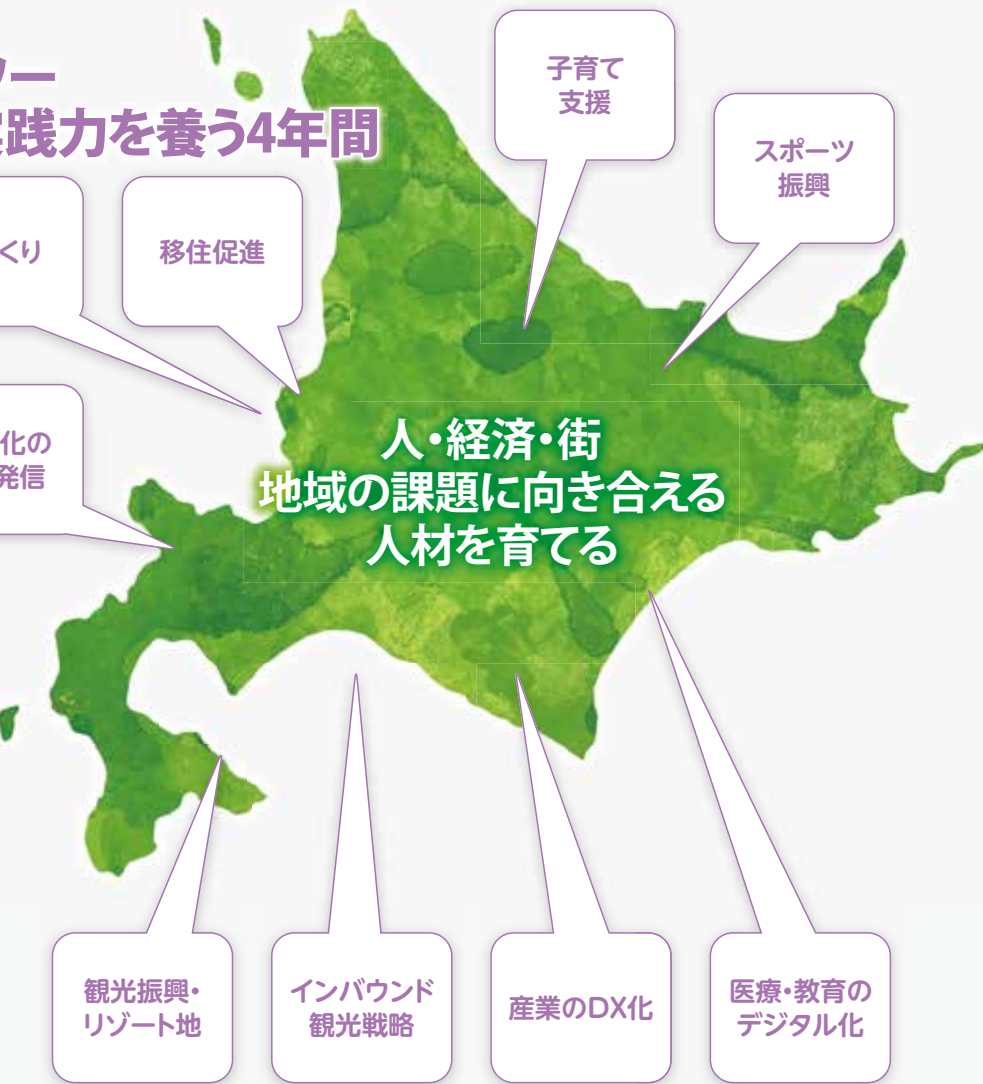
## 活かす“地域人”パワー フィールドワークで実践力を養う4年間

日本は今、人口減少という社会課題に直面し、経済・教育・医療・福祉・地域コミュニティなど、解決していかねばならない課題を抱えています。

2024年4月からスタートする地域未来学科は、地域社会の問題について考え、新たな視点で解決できる人材を育成する学科です。食・観光・資源・土地・大らかな人びと……。北海道が持つ高いポテンシャルを活かせる人材は、今後、ますます必要とされるでしょう。

そして、この学科では、HBUが包括連携協定を結ぶ70団体以上の協定締結先を中心に、北海道内外の自治体や企業等と連携。調査活動やインターンシップ、プロジェクト演習などを通して、地域社会における課題を発見する力、解決に向けた企画力や発信力、コミュニケーション能力といった実践力を養います。

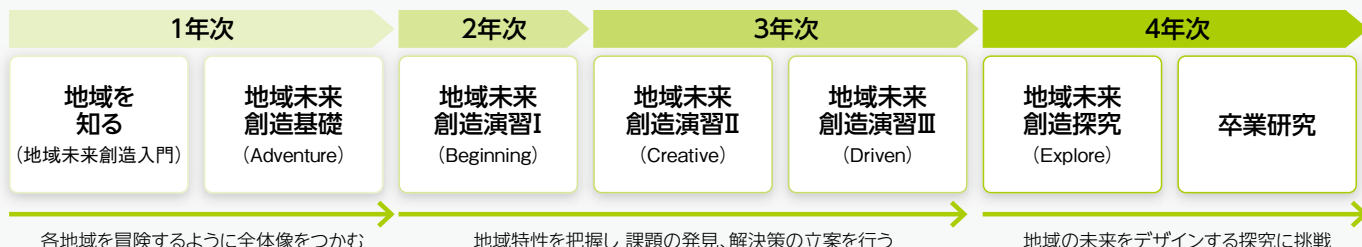
新学科の総合プロデューサーは、日本地域創生学会理事を務める渡部



俊弘学長です。渡部学長は前職の東京農業大学で、網走市の経済活性化を教え子たちと共に経験。そのノウ

ハウをもとに、恵庭から“地域人”育成を推し進めていきます。

## 入学から卒業まで継続して地域での演習を実施



# 科』誕生

詳細は  
こちらから  
→



## 地域の課題解決に向き合う アカデミズムとの共生による地方からの新たな知の創造 『地域創造研究センター』設立

地域未来学科の開設に先立ち、2023年4月1日、『北海道文教大学地域創造研究センター』を設立しました。

センター長には、北海道大学公共政策大学院客員教授を務める小磯修二氏が就任。小磯センター長は、京都大学法学部を卒業後、北海道開発庁（現国土交通省）を経て、釧路公立大学地域経済研究センター長を務め、数多くの地域研究プロジェクトを実施し、同大学学長、北海道大学公共政策大学院特任教授なども歴任しました。

本センターは、恵庭市との連携のもと地域社会の課題解決に向けた創造的な地域政策の提起を目指します。そのために、内外の幅広い研究者や行政実務者、民間人との交流を深め



て共同研究プロジェクトを組織し、より実践的な課題解決能力を身に付けた人材の育成を目指しています。

また、今後の活動や成果をより多くの市民と共有するため、8月5日にはセンター主催による「地域創造研究センター設立記念フォーラム—共生による地方からの創造—」を開催

し、今後の共同研究プロジェクトに向けて、「文化政策への挑戦」や「脱炭素を都市成長戦略に」など、4つのテーマを提案しました。

恵庭から北海道の未来を切り拓く。経験豊富なプロが続々と集まっているHBUのこれからにご期待ください。



## 4月1日 恵庭市教育支援センター 『学びの森』本格始動

さまざまな事情で不登校になった子どもたち。心身ともに成長が著しい時期だからこそ、家庭や地域全体でのしっかりと見守りや導きが必要です。人間科学部子ども発達学科を置くHBUでは、恵庭市教育委員会との連携で2022年10月に『教育支援センター 学びの森』を本館4階教職センター内に開設し、この4月1日より本格的にスタートしました。

学習や日常生活の指

導・サポートは、教育委員会の学習指導員やHBU教員、学生サポーターが担当。8月末現在、登録者35名、利用者数延べ592人の児童・生徒が元気に登校しています。



育みの恵庭から飛び立とう

# ほとばしる汗、はじけるHBUキャ

## 祝 3月11日(土) 令和4年度学位記授与式 427名が新社会人に

コロナ禍の影響で、オンライン授業を余儀なくされた令和4年度の卒業生。徹底した感染予防対策の中で、皆が神経をすり減らしながら行った実習も多く、4年ぶりの開催となった大学全体の学位記授与式は、教職員にとっても感慨深いものとなりました。家族や関係者も見守る中、渡部俊弘学長や恵庭市の原田裕市長から祝辞が贈られ、卒業生を代表して、人間科学部こども発達学科の若木純平さんが答辞を述べました。終了後は、学科・研究科による学位記授与が行われ、卒業生一同、晴れやかな表情で学び舎から巣立っていきました。乾杯！



4年ぶりに卒業生全員と家族・関係者が体育館に集まった学位授与式となった。

## 祝 令和5年4月1日(土) 令和5年度入学式 558名が入学

雪も降らず、時おり晴れ間がのぞいた4月1日。HBUの体育館には、新入生548人（人間科学部・国際学部・医療保健科学部）と、大学院の3研究科10人、約800人の家族と来賓が集まりました。大学全体の入学式開催は4年ぶり。渡部俊弘学長は、「まずは基礎がしっかりできる人になれ、ということです。ぶれない基礎があってこそ、不確実な時代でも乗り越えていけます。次に、出会いと仲間を大切にしてほしいということです。多様な仲間達と努力し合うことで、チームとして総合力を高め、



体育館で従来の入学式を無事に開催できた。HBUでは、学生、教職員の健康維持のために、徹底した感染症対策を継続中だ。

挑戦し、変えていく原動力や勇気となります」と新入生を激励した。さらに、来賓を代表して原田裕恵庭市長が祝辞を贈り、国際学部国際コミュニケーション学科1年の折霜浩徳さんが入学生宣誓を読み上げて、およそ1時間の式典はとどこおりなく終了しました。

## 祝 6月7日(水)～11日(日) 第32回 YOSAKOIソーラン祭り HBUチーム『陽燕』が敢闘賞受賞

第32回YOSAKOIソーラン祭りには、HBUのチーム『陽燕』が参加。今年で12回目の出場となりました。メンバー54名は各学科の1～3年生で構成され、日頃から練習に励み、その様子はキャンパスではほぼ毎日見かけます。

「学生らしさ」をテーマに札幌市内の会場で演舞を披露した今回。コンセプトや振り付け、音楽、衣装など

は昨年8月からミーティングが行われ、新入生は入学式を終えて間もない4月中旬から練習をスタート。授業の合間をぬい、先輩たちの演舞を見て覚えながらの参加となりました。

残念ながら1次審査の通過は見送られましたが、1次審査4位以下の中からブログごとに審査される「もう一度見たいと思ったチーム」に選ばれ、敢闘賞を受賞しました。

大勢の仲間が一丸となり、本番に向けて取り組むYOSAKOIソーラン祭りは、練習中も本番も笑いあり、涙ありの人間ドラマです。感動のシーンはYouTubeで配信されているので、ぜひ、ご覧ください！



# ンパスライフ

鶴岡学園は  
アスリートを  
応援しています!

◀HBU卒業生の志賀  
紅音さん。



祝4月3日

## 女子アイスホッケー日本代表にHBU学生・卒業生が選出されました(世界選手権)

4月5日(水)~4月16日(日)まで、カナダ・ブランプトンで、「2023IIHF女子アイスホッケー世界選手権」が開催され、アメリカ、カナダ、チェコなど10か国のチームが参戦しました。その国際試合に、人間科学部こども発達学科1年生の伊藤麻琴さん(トヨタシグナス所属)が、女子アイスホッケー日本代表に選出され、この3月に人間科学部健

康栄養学科から巣立った志賀紅音さん(トヨタシグナス所属)も出場しました。

志賀さんは、2月に行われた管理栄養士国家試験も受験して合格。難関といわれる試験を乗り越えての国際試合出場は、体力や知力、そして何よりも精神力の強さが感じられます。がんばれ、女子アイスホッケー。おふたりの活躍に拍手!



人間科学部こども発達学科1年生の伊藤麻琴さん。

写真提供/佐藤孝博(2点とも)

## 北海道文教大学女子アイスホッケー支援部もサポート中!

2022年7月、女子アイスホッケー選手の応援を目的に、「北海道文教大学女子アイスホッケー支援部」が誕生しました。体幹や脳を鍛える運動器具「レッドコード」を活用したトレーニングや、公認スポーツ栄養士資格を持つ教員による栄養面のアドバイス、3大会連続冬季オリンピック出場経験を持つ、米山知奈元代表選手のメンタル面でのサポートなど



を通して、パフォーマンスの最大化を目指しています。

HBUの  
卒業生です。  
私も応援  
しています!



人間科学部健康栄養学科助教  
米山知奈 先生

## 弱小チームの汚名返上。目標は日本一 硬式野球部秋季2部リーグ2位

2022年秋まで部員数は10名あまり。札幌学生野球連盟3部リーグの弱小チームだったHBU硬式野球部に、名将、高橋葉一監督がやってきたのは2022年4月。就任会見で、「全国屈指の強豪校といわれる大学に育てあげ、日本一という目標に邁進してまいります」と挨拶した高橋監督は、その言葉どおり、まずは秋季大会で野球部を2部リーグに昇格させました。

そして迎えた2023年の春季リーグ。1年生の出場選手が多数を占める中、7勝3敗で第2位に。

「試合巧者になろうぜと伝えてきた

けれども、そういうチーム作りを秋に向けてしっかりやっていきたい」

1部昇格の夢が叶わずうなだれる部員たちに、こういって勇気づけた高橋監督と部員たちの姿は、6月9日放送のSTVニュース北海道でも放映され、反響を呼びました。秋季リーグは2023年9月に開催され、惜しくも2位となりました。野球部のこれからの活躍をお見逃しなく!



スポーツ報知 2023年4月3日



野球部の  
物語は  
こちらから



## シンポジウム・公開講座で大学の知を地域へ

北海道文教大学には医療系を中心に、多分野で活躍する教職員が集まっています。そこから広がる人脈もまた幅広く、大学に集まる“知”を、広く公開するために、シンポジウムや公開講座などを開催しています。

### 3月6日(月) 第1回 地域未来シンポジウム

地域未来シンポジウムは、2024年4月にスタートする人間科学部地域未来学科のコンセプトを学外に発信する場です。地域で活動する実務者による講演、パネルディスカッションを通じて、地域の未来を考える機会にします。

初回は、プロバスケットボールチームの『レバンガ北海道』で代表取締役社長を務める折茂武彦氏を招



聘し、「我がバスケットボール人生」をテーマに基調講演を行っていただきました。続くパネルディスカッション「スポーツによる市民協働のまちづくり」には、北海道文教大学



女子アイスホッケー支援部後援会会長の早坂貴敏氏と渡部俊弘学長も参加。200人を超える来場者からの質問も多く、盛況のうちに閉会しました。

### 鶴岡記念講堂にサグラダ・ファミリア出現!? 北海道出身 建築家・田中裕也さん制作の実測図展示

8月より鶴岡記念講堂の大ホールに、スペインの建築家アントニ・ガウディが残した巨大聖堂『サグラダ・ファミリア教会』の実測図が展示されています。これは、稚内市出身の建築家で、ガウディ建築物の研究者として知られる田中裕也氏が作成したものです。

この展示に先立つ5月9日(土)、田中氏には「まちづくりとガウディ・コード」をテーマに、地域未来特別公開講座でご講演いただきました。

地中海に面したスペイン第二の都市バルセロナには、ガウディの作品が数多く残されています。中でも有

名なのが1882年の着工から今なお建設中のサグラダ・ファミリア教会です。

暗号(コード)のような装飾が施されたこの教会は、ガウディ亡き後も世界中から専門家が集まり、建築工事が行われてきました。ところが、肝心の設計図が残されていません。田中氏は1978年にバルセロナに移住。以来、約30年の歳月をかけ、実測図を完成させました。

2024年4月にスタートする人間科学部地域未来学科は、「まちづくり」や「人づくり」がコンセプトです。公開講座では、田中氏にまちづくりの視点から、ガウディ建築への思いや自身の体験を語っていただきました。



写真後列右から2人目が田中氏

### 7月25日(火) 特別公開講座 「ウクライナ侵攻を読み解く構図」



長引くウクライナ戦争。赤平市出身で前駐ウガンダ共和国大使、在札幌ウガンダ共和国名誉領事の亀田和明氏を講師に迎え、ウクライナ侵攻を

テーマに、国際法の原則やロシアが侵攻に踏み切った背景などを解説していただきました。

### 6月25日(日) 特別公開講座 「デジタルトランスフォーメーション(DX)の先にある新しい社会とヘルスケア」

超高齢化という難題を抱える日本では、デジタル技術やデータの活用が急務です。データサイエンスを活用した社会変革に挑み、活躍中の慶應義塾大学医学部教授、宮田裕章氏を招き、デジタルトランスフォーメーションがヘルスケアにもたらす価値についてご講演いただきました。



# 市民・自治体・企業と連携 学生も社会貢献活動中!

学生のフィールドワークや教員による市民講座の開催など、地域との連携を深めてきたHBU。今年度も多方面で学生の力が試され、教員が知識と技術を提供しています。そのうちのいくつかをご紹介します。

## 5月12日(土)アレフ(えこりん村)×いちえ×HBU SDGs弁当発表

恵庭市内にある農業と環境のテーマパーク『えこりん村』では、国連が提唱する「持続可能な開発目標



(SDGs)」にも力を入れ、修学旅行生も受け入れています。

HBUは、えこりん村の母体である株式会社アレフと包括連携協定を締結しており、この5月には、人間科学部健康栄養学科の学生20名が参加して、恵庭市内の飲食業『いちえ北海道』と共同で、修学旅行生らに提供する「SDGs弁当」を開発しま

した。

3か月をかけて完成した弁当は動物由来の食材を使わず、豆腐やレンコンで作るハンバーグ、ふぞろいの野菜のサラダなど、地元産の食材をふんだんに取り入れました。

また、5月12日の記者発表の様子は、その日放映された「HBC今日ドキッ!」でも放映されました。こう



北海道新聞 5月20日朝刊

したフィールドワークは、これまでも度々行われてきましたが、学生のやる気や自信につながり、就職後の仕事にも役立っているようです。

## “推し活”で話題の『えにわっ娘。』に妹チーム『イザリス』誕生!

HBUの学生3名による食育アイドル『えにわっ娘。』。その様子は3月13日(月)に放映されたNHK総合「クローズアップ現代」の「まだまだ拡大中! 推し活パワーが社会を変える」でも取り上げられました。そして、この度、えにわっ娘の妹ユニットとして『イザリス』が結成されました。

FM e-niwa の「Any World Sound」にも生出演するなど、奮闘中です。今後の活動に、ぜひ、ご注目ください。



左から、春陽かおり(こども発達学科)・夏芽るき(こども発達学科)・秋月ひなた(健康栄養学科)\*全て芸名。

## 9月2日(土)・3日(日) 「全員が行く、1か月の短期留学」オーストラリア、カナダへ!

国際学部では、原則的に全学生が1か月間の海外短期留学を経験しています。必修科目なので、パスポートやビザ申請などの費用を除く、航空運賃・留学費用・ホームステイ費用などは学費に含まれています。今年度の留学先はオーストラリアのSouthern Cross Universityと、カナダのUniversity of Victoriaです。

9月2日と3日には、国際学部の39名がオーストラリアとカナダへと出発しました。



## お知らせ

ご家族の皆様! 北海道文教大学の「しんわ懇談会」に参加しませんか?

「恵庭」、「旭川」、「函館」、「北見」、「帯広」にて、「しんわ懇談会」を開催。特別講座やランチ懇親会、就職説明や個別面談など盛りだくさんの内容です。詳細は大学HPをご覧ください。



# 北海道文教大学 附属高等学校 **学ぶ意欲と感謝の思いを忘れず未来の自分は附属高** **好き & 笑顔があふれる高**

## 「謳歌爛漫」笑顔が光り輝く学校祭



7月13日（木）、14日（金）の2日間、第2回学校祭を開催しました。生徒会執行部から新企画も提案されるなど充実した内容となり、100%の笑顔が見られました。

## 新たな伝統の息吹

4月20日（木）～24日（月）、新校舎移転後の恒例行事として新入生歓迎イベントを行い、吹奏楽部、軽音楽部、ダンス部がコンサートやダンスパフォーマンスを披露しました。



開会式では色とりどりのクラスTシャツを着て全校生徒が勢ぞろい。

吹奏楽部の「welcomeコンサート」。

## 北海道インターハイ。全校上げておもてなし



7月22日（土）～8月21日（月）、36年ぶりに北海道で開催された全国高等学校総合体育大会ではバスケットボール競技大会（札幌市）の運営に、また、附属高校体育館では空手道競技大会の練習会場として協力しました。

そして、女子サッカー部は、帯広で行われたサッカー競技大会に出場しました。1回戦で東海大福岡高校と対戦し、0対2で敗戦となりましたが、全国レベルを肌で感じるなど良き経験となりました。次は冬の選手権です。

生徒会執行部による高校生活動カウントダウンリレー。 女子サッカー部は帯広で開催された大会に出場。

## 「いただきます」・「ごちそうさまでした」

7月2日（日）、久原本家北海道（恵庭市）主催の「ロングテーブルin恵庭」にて、製菓料理研究部がオリジナル特別メニュー「かにだし香るクリアTOFUハンバーグ」を提供し、大好評を博しました。

また、当日も「100人のロングテーブル」に参加したお客様に歓迎のおもてなしとして、恵庭の美味しい食を堪能していただきました。



ロングテーブルでおもてなし。



# 校で拓く 校生活!

## 洋菓子コンテストで大躍進

7月29日(土)、道内の高校生が洋菓子作りの腕を競う「ハイスクールパティシエロワイヤル2023」の本選が行われ、食物科3年の山口瞳月さんと中村凜音さんのチームが9校21組中、第2位の優秀賞を獲得しました。作品「キャロットとエクレア」はクセのある人参をカスタードクリームに仕上げ、人参と相性の良い紅茶を生クリームに加えることで甘さを控え、アクセントにオレンジピールを散らしてさっぱりした味わいのエクレアに仕上げました。

この作品は商品化され、道内のセイコーマートで10月頃から販売されます。乞うご期待!



▲本選結果発表後に参加者全員で記念撮影。  
◀「キャロットとエクレア」。

3年生1位の作品は「鳳」。



## 飾り切り作品展示



2年生1位の作品は「花冠」。

食物科2年は7月5日(水)に、食物科3年は7月6日(木)に、「飾り切り作品展示」を行いました。それぞれ工夫を凝らした作品が並びました。

## グローバル社会に向けた語学実践力の向上



交流授業の様子。

7月3日(月)、令和5年度恵庭市青少年国際交流受入事業の一環で、恵庭市公立高校2校に派遣されていたニュージーランド・ティマル市の学生3名が附属高校を見学するため来校しました。短い時間でしたが、2年生の英語の授業では、生徒たちが事前に考えていた質問を英語で尋ねるなど楽しい雰囲気の中、交流も一層深まりました。

また、昨年度は「台湾雲林県国立斗六高級中学とのオンライン国際交流」に加え、「2023年ニュージーランドタム留学プログラム」で9週間、6名の生徒たちがウェリントンなどでホームステイをしながら現地高校で語学研修を受けました。

## 地域との交流を深める

6月30日(金)と7月7日(金)、食物科2年の生徒たちが北海道白樺高等養護学校窯業科の生徒たちの指導を受け、お皿作りを体験しました。普段何気なく使っている食器を自ら製作することで調理に対する意識が変わり、料理の幅も広がりました。今後、技術の向上につながることを期待しています。



自己紹介の様子。

# 学校法人鶴岡学園 幼保連携型認定こども園 北海道文教大学附属幼稚園

幼保連携型認定こども園北海道文教大学附属幼稚園は、開園から3度目の秋を迎えました。地域の皆さんにも知られるようになり、こどもたちは広々とした園庭と屋内、そして、時には園の外にも出かけて元気いっぱい過ごしています。

今夏は恵庭も暑い日が続きましたが、澄み渡る空は秋の色。附属幼稚園のこどもたちも元気いっぱい集団生活の中で一人ひとりの発達の道筋を歩んでいます。

9月から雪が降りだすまでの季節は、豊かな環境を生かしたさまざまな戶外活動が予定されています。この時期、園の生活にも慣れ親しんだこどもたちは、仲間同士の関りの中で、「認め」「認められる」ことによって一人だけではない、つながりの中での育ちの充実が図られていきます。まさに、こどもたちの育ちも「豊穰の秋」を迎えようとしているのです。

そのような時期を目前にした「現在の子こどもたちの姿」をご紹介します。  
北海道文教大学附属幼稚園園長 小田進一

2歳

つぼみ組  
テラスで育てたミニトマト。他クラスにもおすそ分けをしました。



1歳

ふたば組  
給食で使ったエプロンを袋に入れます。幼いながらも、「自分でしたい」、「お友達の手伝いをしたい」という気持ちがめばえています。



みんな、  
すくすく  
元気です！



0歳

めばえ組  
8月、歩くことが上手になり、自分の靴を履いて、うれそうにお散歩をしています。



幼児クラス(縦割り)  
4日間に渡って実施したお祭りごっこ。最終日は乳児クラスのお友達を誘い、はりきってお店屋さんをしていました。

幼児クラス(縦割り)  
年長児が上手にヒントを出しながら、季節を先取りして「ふくわらい」を楽しみました。四季折々の遊びを通じて日本の伝統を身に付けていきます。



年長  
クラス

つるのこ組  
「農畜産物直売所かのな」でお買い物。トマト、ピーマンなどの苗を買って、こども園の畑で育てています。

# 新着 包括連携協定



- |                          |                                |                           |                                       |
|--------------------------|--------------------------------|---------------------------|---------------------------------------|
| <p>1 2023年<br/>5月17日</p> | <p>道路建設株式会社及び<br/>道路建設ペリグリ</p> | <p>8 2023年<br/>7月10日</p>  | <p>厚真町・安平町・むかわ町</p>                   |
| <p>2 2023年<br/>5月24日</p> | <p>社会医療法人北斗</p>                | <p>9 2023年<br/>7月14日</p>  | <p>一般社団法人未来工房</p>                     |
| <p>3 2023年<br/>6月2日</p>  | <p>認定こども園<br/>クラーク幼稚園</p>      | <p>10 2023年<br/>7月25日</p> | <p>医療法人徳洲会<br/>日高徳洲会病院</p>            |
| <p>4 2023年<br/>6月15日</p> | <p>北海道文化放送株式会社</p>             | <p>11 2023年<br/>8月10日</p> | <p>株式会社リバネス</p>                       |
| <p>5 2023年<br/>6月19日</p> | <p>医療法人ケイ・アイ</p>               | <p>12 2023年<br/>8月21日</p> | <p>東和新日本語学校及び<br/>東和国际学院</p>          |
| <p>6 2023年<br/>6月26日</p> | <p>木古内町</p>                    | <p>13 2023年<br/>9月7日</p>  | <p>社会福祉法人北海道<br/>社会事業協会洞爺病院</p>       |
| <p>7 2023年<br/>7月5日</p>  | <p>帯広大谷短期大学</p>                | <p>14 2023年<br/>9月7日</p>  | <p>一般財団法人<br/>SAITO MEDICAL GROUP</p> |



# 令和4年度(2022年度) 鶴岡学園事業報告

## I 学校法人の概要

### 学生・生徒・園児数の状況

学校名	入学定員数	収容定員	現員数
北海道文教大学			
大学院グローバルコミュニケーション研究科	5	10	4
大学院健康栄養科学研究科	4	8	4
大学院リハビリテーション科学研究科	4	8	15
大学院こども発達学研究科	4	8	5
外国語学部	100	300	102
人間科学部	450	1800	1647
国際学部	100	100	102
北海道文教大学附属高等学校	160	480	479
幼保連携型認定こども園北海道文教大学附属幼稚園	—	110	89

(令和4年5月1日現在) / 単位:人

### 教職員の概要

区分	法人	大学院	大学	高校	幼稚園	計	
教員	本務	—	0	115	28	22	165
	兼務	—	1	80	15	6	102
職員	本務	3	0	64	3	2	72
	兼務	0	0	2	0	0	2

(令和4年5月1日現在) / 単位:人

### 施設等の概要

キャンパス名	所在地	面積	
		土地(m <sup>2</sup> )	建物(m <sup>2</sup> )
札幌キャンパス	札幌市南区藤野400	97,589	17,260
北海道文教大学	恵庭市黄金中央5-196	100,534	34,835
北海道文教大学附属高等学校	恵庭市黄金中央5-207-11	12,297	8,086
幼保連携型認定こども園	恵庭市漁町396	4,087	1,209
北海道文教大学附属幼稚園			
		214,507	61,390

(令和5年5月1日現在)

## II 事業の概要

### 1. 法人の事業概要

#### (1) 理事会・評議員会の開催状況

会議名	開催回数
理事会	6回
評議員会	4回

#### (2) 主な施設設備の取得とその進捗状況 (単位:千円)

【特別事業】複数年度計画	予算額(千円)	実績額(千円)
① 鶴岡学園創立80周年記念事業:実施年度 令和3~4年度(総事業費30,000千円、R3_1,552千円執行、R4_26,903千円執行)	30,000	28,455
② キャンパスグランドデザインの再構築(大学校舎整備)実施年度 令和3~5年度(総事業費100,000千円、R3_1,925千円執行、R4_27,538千円執行)	100,000	27,538
③ 札幌キャンパス跡地整備実施年度 令和3~5年度(総事業費560,000千円、R3執行なし、R4_73,445千円執行)	560,000	73,446
④ 大学改組改編実施年度 令和4~6年度(総事業費110,000千円、R4_64,433千円執行)	110,000	64,433
第1回補正:⑤ 室内練習場 実施年度 令和4~5年度(総事業費690,000千円、R4_執行なし)	690,000	0
計	1,490,000	193,872
【学園事業】	予算額(千円)	実績額(千円)
法人 新型コロナウイルス感染症対応等	30,000	958
計	30,000	958
【修学支援・奨学金事業】	予算額(千円)	実績額(千円)
① 私費留学生授業料等減免	6,636	1,914
② 在学生成績特待・スポーツ特待減免	63,935	45,050
③ 緊急支援学費等減免	2,000	0
④ 北海道文教大学奨学金(経済的理由により修学が困難な学生他)	7,200	7,080
計	79,771	54,044
【修学支援・奨学金事業】	予算額(千円)	実績額(千円)
高校 ① 特待生制度等減免	44,545	40,158
② ニューホープ奨学金(通学定期券補助)	29,794	24,021
③ ニューライフ補助金(寮費補助)	5,000	4,235
計	79,339	68,414

### 役員の概要

区分	氏名	常勤・非常勤の別	業務執行・非業務執行の別	現職	備考
理事長	鈴木 武夫	常勤	業務執行		昭和44年4月理事就任 平成12年4月理事長就任
常任理事	浅見 晴江	常勤	業務執行	事務局長	平成16年6月理事就任 平成24年12月常任理事就任
理事	渡部 俊弘	常勤	業務執行	大学長 大学教授	平成30年3月 理事就任
理事	伊藤 雅夫	非常勤	非業務執行		平成4年4月 理事就任
理事	北越 俊二	非常勤	非業務執行	恵庭リサーチビジネスパーク(株)代表取締役社長	令和4年7月 理事就任
理事	玉川 裕一	非常勤	非業務執行	(株)玉川組 代表取締役社長	令和2年7月 理事就任
監事	久米 信行	非常勤		学校法人貞静学園監事	令和2年7月 監事就任
監事	中村 至	非常勤			令和2年7月 監事就任

(令和5年5月1日現在)

### 評議員の概要

氏名	在任年月	主な現職等
渡部俊弘	5年1か月	理事、北海道文教大学長
山本淑子	10年11か月	鶴岡学園事務局財務部長
佐々木 淑子	2年10か月	北海道文教大学附属高等学校長
浅見晴江	35年0か月	常務理事、鶴岡学園事務局長
島 里枝	10か月	鶴岡学園事務局教務部教務課長
池田啓子	17年11か月	無職
小向朝子	12年11か月	無職
野呂 美貴子	2年10か月	無職
鈴木武夫	54年1か月	理事長
伊藤雅夫	31年1か月	理事
北越俊二	10か月	理事、恵庭リサーチビジネスパーク(株)代表取締役社長
小田進一	6年11か月	認定こども園北海道文教大学附属幼稚園長
玉川裕一	2年10か月	理事、(株)玉川組代表取締役社長
三枝和也	5年11か月	学校法人柳城学院事務局長

(令和5年5月1日現在)

【募集・広報活動事業】	予算額(千円)	実績額(千円)
大学 スポーツ分野などで活躍している学生を確保(総事業費15,000千円、予備費流用595千円)	15,595	15,554
国際学部完成年度へ向けた定員充足に係る広報募集活動 実施年度 令和3~令和5年度(総事業費60,000千円 R3_40,606千円執行、R4_21,574千円執行、予備費流用2,838千円) R4年度にて終了	62,838	62,180
計	78,433	77,734
【施設設備整備事業】	予算額(千円)	実績額(千円)
大学 普通教室の環境改善(空調設備整備)	57,315	51,455
1号館(国際交流センター)	4,125	3,982
1号館(基礎作業実習室3)	4,015	3,795
3号館(基礎医学実習室)	4,455	4,290
5号館(基礎作業実習室1)	5,005	4,757
6号館(非常勤講師室)	4,477	4,008
6号館(642教室)	4,774	4,215
8号館(821、823、824、833、834教室)	22,159	18,480
9号館(記念講堂921教室)	4,400	4,218
大学会館(学生食堂厨房)	3,905	3,710
法人 本館(事務室)の環境改善(空調設備整備)	16,390	16,045
野球練習場・多目的グラウンドの整備	35,630	13,702
法人 恵庭市民会館側防球ネット	25,300	9,746
国道36号線側防球ネット	9,570	2,867
多目的グラウンド側排水改修	760	1,089
計	109,335	81,202

事業計画	予算額	実績額
法人	82,020	30,705
大学	215,519	183,233
高校	79,339	68,414
こども園	0	0
総計	376,878	282,352

## 北海道文教大学・大学院

令和4年度においては、18歳人口の急速な減少を見据えるとともに、多様化する医療・ケアの現状や新しい時代、地域に求められる人材を育成するため、人間科学部の見直しを行い、医療保健科学部の設置を文部科学省から認められ、令和5年度からは3学部6学科の体制が整えられることとなった。また、学長ガバナンスの下、教育・研究の質の向上を目指し、次のような事業を行った。

### 1) 4学期制の導入や授業内容の見直しを図り、教育・研究の質保証の向上

令和4年度から全学科に導入した4学期制により、留学機会の拡大やインターンシップ等の学外活動に参加しやすくなるなど、教育・研究の質保証の向上に繋がる取組みを開始した。また、対面授業を基本に、アクティブラーニングやPBL（問題解決型授業）、ICTの活用など、本学が掲げる「実学教育」の実践力の創造に向けた取組みを推進した。

### 2) 国際化戦略の推進による国際性のある人材の養成

コロナ禍という制約がある中、海外の5つの大学等と新たな協定を締結したほか、中国浙江万里学院や西安外国語大学とのオンライン交流会を開催などにより、国際性に富んだ人材が養成できるよう取組んだ。

### 3) スポーツ分野などで活躍している学生を支援するとともに、新たな入試制度により学生を確保

令和4年度に女子アイスホッケー支援部を設立し、大学の人的・物的資源を活用した栄養指導やフィジカル面でのサポートなどを通じて、学生支援を行っていくこととしている。

また、令和5年度入試より「運動選手自己アピール型選抜入試」を設け、学生の代表にふさわしい活躍が期待できる者を選考し、女子アイスホッケーと硬式野球で計41名が入学することとなった。

### 4) 地域連携や社会貢献に積極的に取組むとともに、地域に開かれた大学を目指す取組を推進

自治体や企業・団体などとの包括連携協定締結を推進し、連携・協働や共同研究体制等を整備・充実させ、本学の研究成果を地域社会へ還元できるよう努めた。

特に恵庭市とは、「恵庭・知のプラットフォーム」形成に向け協議を進めた結果、地域課題解決に向けた幅広い分野での政策研究・活動を展開する「地域創造研究センター」を令和5年4月に学内に設置することとなった。また、恵庭市内の不登校児童・生徒の支援に係る「学びの森」を本学内に設置し、共同研究事業を試行的に実施したところであり、令和5年4月からは本格実施することとした。

### 5) SDGs（持続可能な開発目標）への取組みを積極的に推進

令和3年度作成の「SDGsハンドブック」を活用しながら、包括連携先である株式会社アレフが運営する「えこりん村」での環境配慮への具体的取り組みや理念を学ぶ研修やコープさっぽろが主催する「北海道海のクリーンアップ大作戦！」に参加するなど、学生及び教職員の意識啓発を図った。

### 6) キャンパスグランドデザインの再構築やデータサイエンス・AIの導入などを見据え、時代の変化に対応した教育・研究体制の充実や環境整備

学園創設の理念である「食」を中心としたビジョン（コンセプト）の再整理を目的として、知財のデジタル化を進めるとともに、ストーリー設計を行った。

また、令和5年度の医療保健科学部の開設を踏まえ、本学の教育・研究機能が地域住民の保健・医療・福祉に貢献することを目的としたヒューマンケアセンターを設置したほか、教員を目指す学生に対する各種説明会や対策講座などを実施する教職センターを設置した。

### 7) 先端的教育・研究事業を推進

先端的な医療・バイオテクノロジー分野において、研究機関や研究分野を超えた横断的な研究開発活動を推進するとともに、機能的な研究室を作り、機器の共有等を図ることで、学部・学科を横断した弾力的な教育・研究体制を整え、複雑な社会構造の要請に応えられる人材の育成を推進した。

### 8) 大学のブランド力や研究力の向上

令和3年9月に設立した北海道文教大学出版会から「HBU 式レッドコード・エクササイズ」やコラム集「現代社会の食と健康を考える」、「北海道文教大学のしあわせレシピ」など本学の教育・研究内容の特色ある書籍を発刊した。また、大学のブランドを構築・確立するため、教職員によるワーキンググループでの半年間のセッションを経て、新スローガン「活かす人へ」を策定し、今後様々な場面で活用していくこととしている。

## 北海道文教大学附属高等学校

令和4年度は、学校経営方針のスローガン『いきる学びを一人一人へ信頼を創る学校づくり』を継続し、恵庭キャンパス移転後2年目の教育活動を展開した。その主な実績として、①新入生144名を加え全校生徒は479名（定員充足率99.8%）となり活気あふれる高校になったこと、②全教職員がウイズコロナの視点で授業や行事等における工夫・改善を図ることができたこと、③地域と連携し新しい取組や活動が加速し、文教大附属高校生の存在が浸透したことなどが挙げられる。

## 幼保連携型認定こども園北海道文教大学附属幼稚園

幼保連携型認定こども園北海道文教大学附属幼稚園として新たな環境におけるゼロ歳から6歳までの園児の生活づくりに取り組みの2年目として、市の保育園から移行した子どもや保護者との新たな関係づくりには一定の成果が見られたことは、こども園の保育・教育の前提の信頼関係づくりに力を注いだことへの成果ともいえる。

## Ⅲ財務の概要 令和4年度決算の概要

### ①資金収支計算書の状況

【資金収支計算書とは…(学校法人会計基準第6条)】

学園の諸活動に対応するすべての資金の流れを表すもので、令和3年度決算書より算出した前年度繰越支払金をもとに、令和4年度の収入および支出を計上した後、令和4年度の翌年度繰越支払資金を表した計算書です。

資金収支総括 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

#### 資金収入

単位:千円

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	2,659,501	2,656,465	3,036
手数料収入	46,159	30,870	15,289
寄付金収入	10,304	11,580	△ 1,276
補助金収入	748,394	743,631	4,763
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	25,018	20,656	4,362
受取利息・配当金収入	11,776	11,710	66
雑収入	31,259	39,077	△ 7,818
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	508,429	464,201	44,228
その他の収入	85,196	80,592	4,604
資金収入調整勘定	△ 471,360	△ 509,092	37,732
前年度繰越支払資金	4,106,084	4,106,084	0
収入の部合計(A)	7,760,760	7,655,774	104,986

#### 資金支出

単位:千円

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,960,135	1,856,391	103,744
教育研究経費支出	1,274,386	1,267,878	6,508
管理経費支出	467,326	431,923	35,403
借入金等利息支出	6,600	6,600	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	98,890	98,845	45
設備関係支出	65,059	59,105	5,954
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	102,478	101,821	657
資金支出調整勘定	△ 54,908	△ 60,047	5,139
[予備費]	( 50,000 )		0
	0		
支出の部合計(B)	3,919,966	3,762,516	157,450
科 目	予 算	決 算	差 異
翌年度繰越支払資金 (A) - (B)	3,840,794	3,893,258	△ 52,464

#### 【資金収支計算書の概要】

資金収入の部合計は76億55,774千円、支出の総額から期末未払金等の資金支出調整勘定を差引いた金額は、37億62,516千円となります。結果として翌年度繰越支払資金は、38億93,258千円となり、前年度比2億12,826千円の減額となりました。

### ②事業活動収支計算書の状況

【事業活動収支計算書とは…(学校法人会計基準第15条)】

学園の諸活動に対応する収支を3つの活動に区分することを定め、「経常的な収支」と「臨時的な収支」とに区分し、更に「経常的な収支」を「教育活動」と「教育活動外」に区分することで、それぞれに対応する事業活動収入と事業活動支出の収支内容を明らかにすることを目的としています。特に「教育活動に係る収支がどのような状態であるかを把握することが重要としています。

事業活動収支計算書総括表 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

#### 教育活動収支

単位:千円

事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
	学生生徒等納付金	2,659,501	2,656,465	3,036
	手数料	46,159	30,871	15,288
	寄付金	10,491	11,812	△ 1,321
	(現物寄付)	( 187 )	( 232 )	( △ 45 )
	経常費等補助金	738,428	733,665	4,763
	付随事業収入	25,018	20,656	4,362
	雑収入	31,201	38,504	△ 7,303
	教育活動収入計	3,510,798	3,491,973	18,825
事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
	人件費	1,999,836	1,876,337	123,499
	(退職給与引当金繰入額)	( 73,003 )	( 53,246 )	( 19,757 )
	教育研究経費	1,729,707	1,724,328	5,379
	(減価償却額)	( 455,321 )	( 455,838 )	( △ 517 )
	管理経費	711,166	675,089	36,077
	(減価償却額)	( 243,957 )	( 243,971 )	( △ 14 )
	徴収不能額等	0	5,847	△ 5,847
	(徴収不能額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )
	教育活動支出計	4,440,709	4,281,601	159,108
教育活動収支差額(A)	△ 929,911	△ 789,628	△ 140,283	

#### 教育活動外収支

単位:千円

事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
	受取利息・配当金	11,776	11,710	66
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	11,776	11,710	66
事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
	借入金等利息	6,600	6,600	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	6,600	6,600	0
教育活動外収支差額(B)	5,176	5,110	66	
経常収支差額(A)+(B)	△924,735	△784,518	△140,217	

#### 特別収支

単位:千円

事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	20,959	24,250	△ 3,291
	特別収入計	20,959	24,250	△ 3,291
事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
	資産処分差額	2,290	4,595	△ 2,305
	その他の特別支出	524	523	1
特別支出計	2,814	5,118	△ 2,304	
特別収支差額(C)	18,145	19,132	△ 987	

単位:千円

【事業活動収支計算書の概要】

事業活動収入35億27,933千円、事業活動支出42億93,319千円です。

事業活動収支計算書では、事業活動収入から事業活動支出を比較し、その収支差額△7億65,386千円から基本金組入額1億37,294千円を控除し、当年度収支差額は9億2,680千円の支出超過となりました。前年度繰越収支差額△12億65,041千円、基本金取崩額1億26,140千円であり、よって、翌年度繰越収支差額は△20億41,581千円となりました。

科目	予算	決算	差異
[予備費] (D)	( 50,000 )		0
基本金組入前当年度収支差額(A)+(B)+(C)	△906,590	△765,386	△141,204
基本金組入額合計	△ 106,226	△ 137,294	31,068
当年度収支差額(E)	△1,012,816	△902,680	△110,136
前年度繰越収支差額(F)	△1,265,041	△1,265,041	0
基本金取崩額(G)	126,140	126,140	0
翌年度繰越収支差額(E)+(F)+(G)	△2,151,717	△2,041,581	△110,136

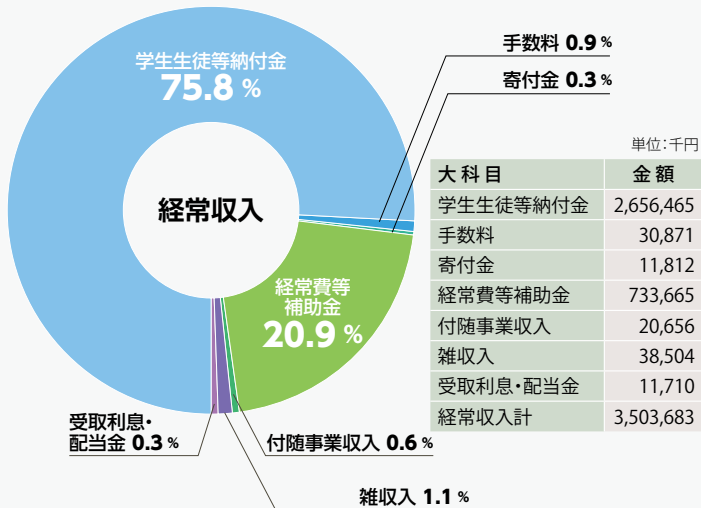
【参考】

単位:千円

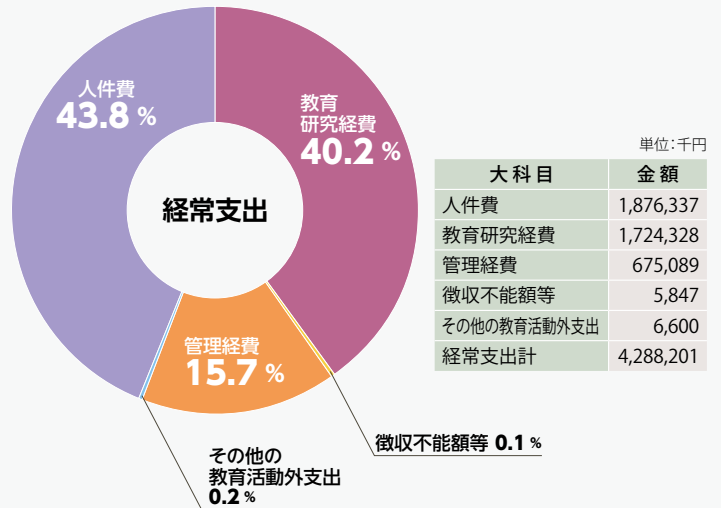
科目	予算	決算	差異
事業活動収入計	3,543,533	3,527,933	15,600
事業活動支出計	4,450,123	4,293,319	156,804

経常収入・経常支出に対する比率(教育活動収支+教育活動外収支)

経営収入の比率



経営支出の比率



3 貸借対照表の状況

【貸借対照表とは…(学校法人会計基準第4条関係)】

令和5年3月31日現在の財政状態を表した計算書類で資産と負債・純資産・繰越収支差額の状況を表しています。

資産の部

単位:千円

科目	本年度末	前年度末	増減
有形固定資産	9,456,923	9,984,617	△ 527,694
特定資産	970,000	970,000	0
その他の固定資産	6,247	9,905	△ 3,658
流動資産	3,958,209	4,189,405	△ 231,196
資産の部合計	14,391,379	15,153,927	△ 762,548

【貸借対照表の概要】

資産の部合計143億91,379千円、負債の部合計23億17,812千円となりました。純資産の部120億73,567千円は、基本金と翌年度繰越収支差額で構成された金額です。

(資産の部) - (負債の部) = 自己資本(自己資金)

負債の部

単位:千円

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	1,662,395	1,737,570	△ 75,175
流動負債	655,417	577,404	78,013
負債の部合計	2,317,812	2,314,974	2,838

純資産の部

単位:千円

科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	14,115,148	14,103,994	11,154
繰越収支差額	△ 2,041,581	△ 1,265,041	△ 776,540
純資産の部合計	12,073,567	12,838,953	△ 765,386
負債及び純資産の部合計	14,391,379	15,153,927	△ 762,548

# Open Campus in Autumn

## 北海道文教大学

10:00~13:00 (受付開始9:30)

10/8

SUN

### Program

#### 学科紹介

大学祭と同時開催のため、学内に学科ブースを設けています。  
気になる学科をチェックしてください!

お申込みは  
こちら



#### キャンパスツアー

学生スタッフが学内の見どころを、おしゃべりしながら案内します。



#### 個別相談

奨学金や、まだ間に合う特待生選抜チャレンジの話聞けます。



#### 学科別入試対策講座

出願  
志望者  
必見!

学科によって異なる、総合型選抜や小論文対策を実施します!

12/17  
SUN  
10:00~13:00

### 高校1・2年生対象 ミニオープン キャンパス開催!

もう志望が決まっている人も、まだ目標が見つからない人も楽しめるプログラムになっています。大学の雰囲気や学び方に触れるチャンスなので、お気軽にご参加ください!



学校法人鶴岡学園  
北海道文教大学

北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1  
TEL: 0123-34-0059 FAX: 0123-34-0057  
E-mail: kikakutyosei@do-bunkyo-dai.ac.jp  
https://www.do-bunkyo-dai.ac.jp

